

<株式会社エフエム東京 第 455 回放送番組審議会>

1. 開催年月日：平成 31 年 2 月 5 日（火）
2. 開催場所：エフエム東京 本社 10 階 大会議室
3. 委員の出席：委員総数 6 名（社外 6 名 社内 0 名）

◇出席委員（3 名）

横 森 美 奈 子 委員長                      内 館 牧 子 委員  
川 上 未 映 子 委員

◇欠席委員（3 名）

渡 辺 貞 夫 委員                      秋 元 康 委員  
ロバート キャンベル 委員

◇社側出席者（10 名）

富木田 代表取締役会長  
千 代 代表取締役社長  
平 専務取締役  
吉 田 常務取締役  
西 川 常勤監査役  
村 上 常務取締役営業局長  
森 田 執行役員編成制作局長 兼 編成部長  
兼 株式会社グランド・ロック代表取締役社長  
延 江 営業局エグゼクティブ・プランナー  
若 杉 編成制作局制作部長  
小 林 報道・情報センター部長

◇社側欠席者（0 名）

**【事務担当 森田放送番組審議会事務局長】**

4. 議題： 番組試聴（約 25 分）

『陛下と僕』

2019 年 1 月 6 日（日）19:00～19:55

＜議事内容＞

議題 1:最近の活動について

■2018 年 12 月度 聴取率調査結果について

2018 年 12 月度の首都圏ラジオ合同聴取率調査結果が、ビデオリサーチより発表されました。(調査対象期間：2018 年 12 月 10 日～12 月 16 日)  
当社コアターゲット M1F1 層（男女 20～34 歳）の全日平均において、今回は前回 10 月度単独首位だったスコアが下降する結果となり、J-WAVE、TBS ラジオと並んでの同率首位となりました。

今回のスコアでは、M1 層は増加したものの、これまで堅調に推移していた F1 層が減少しました。これは、12 月度の F1 層の SIU（セットインユース）が過去最低水準になったことにもよりますが、中でも F1 層を牽引してきた当社のスコア減、とりわけ平日デイトタイムで聴取分数を大きく下げたことが影響しており、依然、継続聴取における課題を残しております。

この結果を踏まえ、4 月はおかねてからの課題であった平日の立ち上がりである朝帯の強化を目的に、ワイド番組の改編に取り組み、平日のスコアの底上げを目指すと共に、平日夜帯の見直し、営業局と連携した土日の箱番組などの改編も視野に入れ、引き続き課題点の克服、ターゲット層の心に響く放送を心がけると共に、全番組総点検のもとライフスタイルにフィットした番組づくり、音空間づくりの回復に努めて参ります。

■『SCHOOL OF LOCK!』×秋元康が贈る新プロジェクト

10 代限定 声の甲子園！『きみのこえがききたい。』

TOKYO FM/JFN38 局ネットで放送中の 10 代向け番組『SCHOOL OF LOCK!』では、10 代限定の声の甲子園『きみのこえがききたい。』をスタートしました。『きみのこえがききたい。』は『SCHOOL OF LOCK!』と秋元康がタッグを組んだ次世代型”声の才能”発掘プロジェクトです。レコチョクと共同開発したアプリ「Eggs Voice」をダウンロードして、毎週月曜に更新される「青春ラブストーリー エピソード」を自身の声でレコーディングして、エントリー。エントリーされた声の中から、男女各 1 名を選び、オリジナルのラジオドラマとして『SCHOOL OF LOCK!』内（一部放送局を除く）で、1 月 7 日（月）から毎週（月）～（木）22:55～23:00 にオンエアしています。ごく普通の 10 代が、声によって主役になれるというプロジェクトです。放送されたストーリーは特設サイト内にアーカイブされ、今後はグランドチャンピオン大会なども開催していく予定です。

■1月27日(日)『NISSAN あ、安部礼司』が『あべ☆EXPO2019』を開催

TOKYO FM/JFN で毎週日曜に放送中の平均的なサラリーマンの日常を描いた大人気コメディラジオドラマ『NISSAN あ、安部礼司～BEYOND THE AVERAGE～』では、「あべ☆EXPO2019」と題した番組イベントを1月27日(日)、横浜の日産グローバル本社ギャラリーで開催しました。「あべ☆EXPO2019」は、「ラジオドラマと最新テクノロジーの融合」というテーマで、Vチューバー東雲めぐとの共演、次世代プラネタリウム「メガスター」の演出で楽しむ会場限定のラジオドラマ「アベシアター」、かけるだけで安部礼司にまつわるいろんなスポットを体感できるVRゴーグルや、番組キャラクターでもあるスマートスピーカーのイギャラクシーのデモンストレーションなど、安部礼司の世界を最新テクノロジーで体験できるアトラクションが満載のイベントとなりました。17時からは『NISSAN あ、安部礼司～BEYOND THE AVERAGE～』を会場から公開生放送。スペシャルゲストにNOKKOを迎え、生ライブやレベッカの名曲『フレンズ』に絡めて「ともだち」にまつわるエピソードをリスナーから募集し会場・放送を盛り上げました。

さらに会場では、TEAM 安部礼司による恒例の名刺配布会を実施。今年は名刺に最新テクノロジーが搭載。名刺に記載されたQRコードを読み込むと、3Dオーディオ技術で制作したラジオドラマ「立体音響で楽しむ安部礼司」を先行で聴ける仕掛けで、手持ちのヘッドフォン、イヤフォンを用いるだけで、ドラマの世界観に囲まれるような没入感ある新しい体験ができるものとなっています。米国DTS社が開発した3Dオーディオ技術「Immersive Headphone Mix by DTS®」と、日本初の「Immersive Headphone Mix by DTS®」認定スタジオを持つ、P's Studioの技術提供を受け制作しました。なお「立体音響で楽しむ安部礼司」は2月3日(日)18時以降、安部礼司の番組HPおよび、IPサイマルアプリ「WIZ RADIO」のオンデマンドコンテンツでの提供を開始。安部EXPOに来られなかったリスナーの皆様にもお楽しみいただけるようになりました。



▲集合写真



▲NOKKOのライブ



▲恒例の名刺交換



▲VR 体験

## ■西日本豪雨被害復興プロジェクト特別番組

### 「雨あがれ PROJECT～RAINBOW CONNECTION～」について

昨年 7 月に発生した西日本豪雨から約半年、被災地の多くは力強く復興を遂げていますが、観光客の数は戻らないままです。経済産業省はこの風評被害を食い止めるため「雨あがれ PROJECT」を立ち上げ、観光地支援と復旧が遅れている地域支援を主にインターネットで呼びかけていますが、TOKYO FM はさらに市民レベルで深く浸透させたいとの経産省の要望を受け、JFN10 局（FM FUKUOKA、FM 高知、FM 愛媛、FM 山口、広島 FM、FM 岡山、FM 山陰、Kiss FM KOBE、FM OH! (FM OSAKA)、FM GIFU）ネットで、西日本の観光地の復興状況を伝え、観光客を迎える準備も整っていることを伝える特別番組『雨あがれ PROJECT～RAINBOW CONNECTION～』を 1 月 20 日（日）19:00～19:55 で放送しました。

JFN10 局のレポーターたちがそれぞれの地区の文化的魅力、景勝、名産物産などを紹介しながら市民の声と共に復興している姿をメッセージ、SNS では、ハッシュタグ「#雨あがってます」で現地のリスナーや番組出演タレントがアップした投稿を「雨あがれ PROJECT」サイトで紹介しています。このようにネットワーク各局で地元リスナー、パーソナリティ、出身タレントが一体となったイベントと放送を昨年 12 月から順次展開しており、特別番組はそれらの集大成としてオンエアいたしました。



アップした投稿を「雨あがれ PROJECT」サイトで紹介しています。このようにネットワーク各局で地元リスナー、パーソナリティ、出身タレントが一体となったイベントと放送を昨年 12 月から順次展開しており、特別番組はそれらの集大成としてオンエアいたしました。

**【委員の意見および社側説明】**

(「○」委員意見／「■」社側意見)

○聴取率における平日のF1層の減少は大きな問題だ。

■弊社が各局の中でもF1層をけん引していた部分もあるので、そこが下がると全局としてのF1層の数字も下がってしまう。今回は、F1の数字が過去最低となってしまった。

○原因はあるのか。

■前回F1の数字は良かったので、「安定していない」というのが現在の状態を表している。コアな固定層がないということ。ロイヤルリスナーを獲得するよう心がけたい。そうでないと、前回から今回のように調査回によって数字が乱高下してしまうことになる。また、課題は継続聴取。リーチは獲得しているので、そこからいかに長く聴いていただくかが課題だと考えている。

○方向性としては、様子を見るのか、てこ入れをするのか。

■ただ様子を見るのではなく、常に検証を重ねながら、例えば番組にきちんと想いや熱量などが掛けられるかの心持ちがあるかどうか、それが表れる演出がきちんとできているかどうか、日々点検しながら取り組んでいきたい。

○「きみのこえがききたい。」は面白そうな企画だ。10代の多感な子たちに、スタイルに自信はないが、声なら自信があるとか、テレビに出るのは違うが、このラジオの企画なら、とすごく良い機会を与えていると思う。

○立体音響で楽しむ安部礼司と説明があったが、今後、立体音響はいろいろ展開していく予定なのか。

■まず実験的にDTS社の記述をお借りして今回の取り組みとなった。実験を重ねながら行った。本日お手元に、番組の名刺を配布させていただいたが、QRコードの記載があり、かざしてもらおうと立体音響が楽しめるようになっている。

○ラジオドラマで一番怖いのは「怪談」テレビよりも遥かに怖い演出となる。

■怪談を取り扱くと、編集の途中でテープが切れるなどの都市伝説がスタッフの間でも噂されている。また、ホラー映画も音を消すと全く怖くないと言われるように、怖いのは音

<第 455 回放送番組審議会議事録>

から来る部分も強い。今度立体音響でもチャレンジしてみたい。

○今、またホラーが話題になっているので、ぜひ聴いてみたい。

○安部礼司は番組が大変人気で素晴らしいが、スタッフは仕事が多くて大変そうだ。

○イベント集客はどのくらいだったのか。また、男女比はどうか。

■集客は2万人を超えた。これは日産本社グローバルギャラリーの年間集客で一番の数字となっている。同じ場所で24時間テレビ関連のイベントを開催しているがそれよりも多い集客と聴いている。比率で言えば男性が多いが、家族連れも多い。

○ラジオドラマ内の架空のキャラクターに実際に足を運ぶというのは素晴らしいこと。

■今後も工夫をしながら企画を行っていききたい。

## 議題 2：番組試聴

【番組名】 TOKYO FM 特別番組『陛下と僕』

【放送日時】 2019年1月6日（日）19:00～19:55

### 【番組概要】

本日ご試聴いただくのは、1月6日（日）に放送した TOKYO FM 特別番組『陛下と僕』のダイジェストです。

今年4月30日 今上天皇が退位され、翌5月1日に皇太子殿下が新しい天皇として即位されます。20代、30代を中心とした TOKYO FM の若いリスナーは、「平成」の時代しか記憶にありません。また前回の代替わりを知る世代も、「象徴としての天皇」や「皇室」、「宮内庁」は遠く感じるだけでした。

この節目の時に、カラテカの矢部太郎さんと共に、天皇・皇后両陛下のことや皇室、そして宮内庁の儀式や働く皆さんについて、「学び」「探り」「知る」番組を全4回にわたり放送する番組が『陛下と僕』です。

宮内庁には、新聞社やラジオ・テレビの記者が所属する「記者クラブ」があります。この記者たちは、宮内庁の些細な動き、侍従の表情の変化から時局を推理し、裏付けを取り記事にする職人たちの集まりです。元宮内庁担当記者の「今だから話せる」様々なエピソードからは、普段報道されることのない両陛下や皇族方の素顔が垣間見られます。

彼らの会話を聞きながら、今上天皇から投げかけられた「象徴としての天皇制」について私たちが考える時に、よすがとするような情報を届ける番組を目指しています。また、若いリスナーに肩の力を抜いて聞いてもらえる皇室番組を目指し、全体を構成しています。

本日お聴きいただくものはダイジェストの為、番組冒頭から15分以降に構成していましたがより深い記者たちの話、陛下のお人柄をしのばせるエピソードのパート、また矢部さんが皇居東御苑を実際に訪れた際のパート、また音楽パートについては、一部割愛させて頂いていますこと、ご了承ください。

#### ■当日のオンエア楽曲

- ・「シェルター」／Porter Robinson& Madeon
- ・「ワタリドリ」／Alexandros
- ・「Night Fog feat. Achico」／mabanua
- ・「Running Around」／Terry Callier

<第 455 回放送番組審議会議事録>

- ◆進行：矢部太郎  
(お笑い芸人・カラテカ)



- ◆第 1 回放送 出演：(敬称略)
- 岩井克己（皇室ジャーナリスト、朝日新聞皇室担当特別嘱託）
- 片山大介（参議院議員、元 NHK 宮内庁担当）
- 橋本大二郎（前高知県知事、元 NHK 宮内庁担当）
- 宮城孝治（徳島新聞特別編集顧問、元共同通信宮内庁担当）
- 渡邊満子（メディアプロデューサー、元日本テレビプロデューサー）
- 平栗徳雄（公益財団法人菊葉文化協会ボランティア、元宮内庁庭園課）他

**【委員の意見および社側説明】**

(「○」委員意見／「■」社側意見)

○この企画を考えて、よく実現させたと思う。「陛下と僕」というタイトルは「大家さんと僕」からインスピレーションを受けたものだと思うがインパクトがある。矢部太郎さんのキャスティングはとても良い。お笑いの人にありがちな、いじる、暗いか、騒ぐか、内輪話か、という人が多い中、矢部太郎さんはたどたどしさと清廉さが、作っているキャラクターかも知れないが、いい意味で確立されている。

○BGMが少し耳障りに感じた。記者の年齢が高いこともあるので、BGMと合っていないくて、聴きにくかった。選曲も含めて BGM はもう少し考えてほしかった。思い出話は、演出をよほど工夫しないと、語る側は盛り上がりつつも、聴く側には面白さが伝わらないことがある。一番心に響いたのは天皇陛下の声だった。せっかく裏話を語るのだからその演出はもう少し工夫があっても良いと思う。

○なぜ、天皇陛下は平成を終わらせようとするのか、というテーマは大変面白いと思ったが、番組の中では触れられていなかった。

■後半部分で扱ったが、今回の試聴素材からはカットしてしまった。

○難しいテーマなので、なぜ、天皇陛下は平成を終わらせようとするのかということ番組の芯に据えても良かったのではないかと思う。記者の思い出話ではなく、そのテーマに絞った方が伝わったのではと思う。

○「陛下と僕」というタイトルがとても良く、矢部太郎さんの話すトーンが聴き心地よかった。確かに、普段裏側で取材をして表に出てこない方々の思い出話を聴くのは一般のリッスナーにはハードルが高いかと思う。全 4 回のシリーズなのであれば、4 名の方を各 1 回ごとの出演にして 1 つのテーマを深堀するなどした方が際立ったようにも思う。出演者が多かった。

○一生懸命聴くと興味深い話もあるが、終始おじさん方の思い出話で終わったしまった印象。

○若い人への訴求を込めて選曲したと思うが、話とのギャップがあって、集中力をそがれてしまった。

○「陛下と僕」というタイトルが一瞬ドキリとした。矢部太郎さんは漫画家の部分しか知らなかったが、彼のキャラクターが活きたキャスティングだったように思う。

<第 455 回放送番組審議会議事録>

○ゲストの方々はそれなりの立場の方だと思うが、その方たち同士で話してしまうと、聴く側が全く入っていけない内輪話のような感じがしてしまった。あくまでも矢部太郎さんが「僕」という立場なので彼にインタビューさせるなどしたらよかったのではないか。そのような演出を期待させるタイトルだったので、ちょっと物足りなさを感じた。

○全 4 回のシリーズということだが、今後のテーマなどは決まっているのか。

■今回のテーマは「生前退位」。2 月に放送予定の第 2 回は「慰霊」、第 3 回は「美智子さま」、第 4 回は「次世代へ」をテーマとして放送する予定。

6.議事内容を以下の方法で公表した。

① 放送:番組「JOGLIS」

2 月 23 日(土)7:00～7:20 放送

② 書面:TOKYO FM サービスセンターに据え置き

③ インターネット:TOKYO FM ホームページ内 <http://www.tfm.co.jp/>

7.その他

次回の放送番組審議会を、3 月 5 日(火)に開催することを決めた。